一葉抄

特別
へ12
5127
13

義榮 上

一葉抄第七

若菜上

春氏名八祖と云ふ説ありて是源氏
の若宮御賀よりむ[illegible]此若菜と
云ふ物語ありいにしへよりとりてい
ひ八此巻ならずありきて一部の中
ふるとゝろ事八和漢其例多し
漢書ハ高祖紀上下あり又ふつ
の物語ハ[illegible]吹上の上下あり[illegible]
いまゝハ源氏の若菜三十九巻のみなり
[illegible]歌の[illegible]のすあり

きさいの宮おりゐ給ひしかハ　西石
のうちぬまつるの宮とて月日
まつる　いまのくの御事なり
先帝の源氏　為重卿御子なり
なり文殿ちうふ月日
あるき信　なを成給ふ
御門を御のうしかハ　朱雀院乃
御ハらくおりまして為つぬめ給ふ
此ものを入給ふ勝月秋の月
そのつきを給ふ
西山なり　仁和寺と思ふせあるべき
二年し義平御門仁和寺よこをり
なりあいなり　月花
母女御　西山なんとも
ちう母御　義春殿也ひけ給ふ
中納言君　母宮の御母女御
久寿
この院の御
源氏の御事　院乃
ちうより朱雀院乃
ちうなりあり　大尾をすハ
ちをなんと
なり
東宮なり
四石の姫君御入内

中となり
こ乃うち乃やうに　冷泉四十歳之下此詞
同しころなりなまつりのりうにて長
せしのぬきなあり
此秋の比なし　十月のすゑつかたに行幸
と書するなりへし
ふ師しもん言ハ　夕霧此ころへ宰戸
中将のうちは十よそし中納言にて
めさ中将　也しろ
御のうつ御しとよりん　うつ御ハ器
量にわるきけんとよりぬあり

大臣　夕霧十九歳之
納言ます　中納言にあゆとなり
こ宰相ハ中将にてすくるめる　夕霧宰相
中納言なり
あやまりてかし中将をまなり　夕霧は
宰相中将のとき中将そのして子此観し
まなこのハなしさるのをあやまりてと
ハあやしらゆきなり
冷泉中宮　秋好の冷泉なり
中納言ハ　冷泉しろのいま業なり
やむすのなしさ冷泉院にとまて　源氏

乃至上臈と申すべきなり
上代年貴の作式者にはまれなり
なりしなり
あさむしれんハ　あさむしろくハあり
この文　世之の文したりあり
うへと　朱雀流の作す
いそしらを　ちり
ひあ　ひ
いあ　弁ら異業
ちと　ひ
ひさ　ひ

東しあさ　ひ
ほと　仕て　源氏の作ハ
かうこう　あさ　ひ
ひと　世人ハ
臈を退　ひ
ひと　ちハ
上の　ひ
ひ　ひ
ひ　事
ちと　世の
こと　ひ

ともへさりかなり人をしかんしちく世のけと
さゝめことんなん　承ける人のいひける
一称かしる人のいひしをこそへりなれと
まち大方の人乃とてもかなしとちらひ
あをしきやうよ女ハ男とものりその色
ありしさきくそのかしきめかれ金
ハらくのこしくさゝめ名なる人と世に
人のいひあつかしくうき名ひさらむ
ほとんとなり
あらさりけり　清少家の事なり
そしもかくてし人の名のしなり　此詞

所なりせりつ尽し　源氏の御事あり
乃しよかしぬく
無名之字　作り
大納言朝臣　京極よりきさ人之朱雀
院の勅別當なりし家にハ女之
文の家司との御むしろなり
前とのやうなりえてひまた　嵯峨天皇
御女潔姫　太政大臣藤原朝臣良房
嫁之例也
右馬頭のこゝろよくなかなかしあけしのつきの地
たも進て　柳木宴よもしめて大臣つ屋

とみ内侍ハ此ころ月来なすくれ給ハす
の母女方のいかくされけり
此ことあはれに思ひてんまはりこそあれや
さる人ハなりのゆかしさにそ聞えたまりけるとて
権中納言とも　夕霧なり
みなくしめはや　（に）猶くまり給ふさはしよ
なかハまして心ちなれぬと思ひよそすへれ
御心にも給ひて　世はしきりよしなり
院の御世　源氏廿九朱雀院卅三なり
りしを給ひさはあやまりぬ　源氏は君
八朱雀院の御才なるなり

御達さし不定なる世は　これにつけても女こ
の方御ありしるを乃すとまてゆかりすし
不定の世の中なりとこそいひてかくしなりひとへ
わたくし言にてあつかりぬるんすこれは
幸なきなり
しる世はしらん　朱雀院よりしら
之達をまたりしあるはしとて
申しつくされん　善悪しつけ給ひて
やむことなきものゝを　源氏の御心
のたゆみなくりしてなかりける右中将
御入内の此事にこのうちゐ

いつきまれ　いつきいはひ　うたひ　をしてうたひ
うたひ殿（エトノ）　柏梁殿　朱雀院　あり　石町の
やうにうたひ
三丁　九性　別なり
ちうしやきさまの　周礼　石の上服
と云ハ　袴衣　袍狩　鞠衣　展衣
縁衣也　いあれすくるたとへ
と二所の　右の　右ハ　番　つ
物ゝ　の　右ハ　番　つ
いしい　年　神　月の　祝賀の　けん
たとへ　世人　なり

いあき　祝　ちうの　きり　四日
のすくれ　くい　ゝ　ゝ
義人　所　あ　の　蔵人　所　ゝ　の
世ゝ　義人　宣　ゝ　調　ゝ　物　年　家
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
年　者　ハ　ハ　是　ハ　食　例　て
祝　祝　の　ゝ　ゝ　ゝ　者　ゝ　ゝ
ゝ　唐　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
あ　ゝ　ゝ　者　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
注　昔　の　ゝ　あ　ゝ　の　奥　祝　ゝ
ゝ　髮　上　の　様　式　あ　ハ　ゝ　の　ゝ

いろいろの 花尺 歌字しくくりなるもの 世のく
しのうけりなしこと
家の格のことは　誰しも知る院の殿上
ましきかたなるを朱雀院へもまひ人て
かうち宇多　昭宣公の御すゝむる院
の御言への御ちかくそへあり
乃ちあるらなりしとくし　さしあるへしハさ
なりくて　今まて世ならり承されり
はるハかうひとたく　昇下のへあり
さしつさし見るゆかしゝゝ　乃しつきハ中宮
の御さいちいよ　母三の宮あやうりな

へしとの名なりゆゑにかくは家の名て
かさしハ清なり
みなれたる家よ　母三宮ずして　皆御親
其のさゑめしれ出へよし給ひくるなは
立給ふなるなり
西しの太上天皇の儀式はしけるなれ
禄 封戸年官年爵など　八太上天皇に
なるかなはなしとしこ元子まてましし
御門の脱屣の後此儀式なりまたかゝる
へきものゝ先例勿論なくて　源氏の君
名乃やうなり給ひし也

おもしかへぬ御車　常は檳榔のす
なり　西宮抄云太上天皇御行
供奉人公卿　随時要之　上皇乗車　檳榔 朱雀院初
鉄檳榔　今案唐庇なとは後にや　今出太内叶葉金
出来事なるへし
かゝりありつる御車ありとは見えてまつりなりて
〇御わかちせなひて物へまうさるあるさ
もてしるしまして御くしおりしけ
と御乗んすり御乞しいてをりなん
三くハ昇てしま給りて以下わりの
あくひなりへし

本院よとまて　源氏の御絶なり
乃とめとさて　世なのれ云ふ所のとりなり
念佛をとく　一念十念なりけとのしたり
此外なり　御出家の事に
さ入なり　源氏の御絶なり御とくみを
あさ方まうりへよ御うしてそのすなり
こまやかなる御へせ　さへやけすもの
衣をて事もやしんなれはすなり
きりは御子のれし　従二位兼は
子忠行なし　嫁於はのあり見にも
内親王一人　女とも親王宣下あり

て毛氏せんうしのうけたんよ　亀殷紫
檀法香をしあくすりなり　後法師
法鉢と云用意量器をしてなり也家
後家と法也家後法結を法鉢と
云用すハ宣長年法白毛氏例ハ　異
こりゝ今毛氏法りたんと　紫のうつ
如毛氏法をすとの結りたんを
隔毛氏やうしあ紫めりなり
うち氏毛のうち也家
かくてをうしあるまくハ　女毛氏より
乃毛あくしをくりしの結なり

こうしの乃ちうしも　紫と乃仲なり
大仏の方　ひとくれのうちも毛なり
人毛氏ふ結りん　紫のうしのうしふ
ひとひのあうりとうなり
年七七なりぬ　源氏写本なり
四月廿三日　花　延長二年四月廿五日甲
子　元子写法賀毛白　献之
宋女調和義茅義義供進之
四月の賀八毛と義茅　後世節花
の加毛毛紫加毛をしてて
さうり氏法ひうしの　又行く左大将

方の御膳もものゝ事く
南のやくの　宝院也竜の殿の甚かし
なりもりいくハ母屋なり
か屋しの　和 さうさ夜流るひゝせやう
おしくく髪所なり
宗教もしきいし　院をも御信すと
。ハさりなり
御座しき　唐莚よ大文高麗なり
とくさへちらなり又読袋の地鋪と
いあり還のもとひなりくし
是ハ菊の御のうてまさてへよ用く

夏冬乃御装束　四季とハよなをし
夏冬を通ゝかされ　夕くへましいつ動く
ゆきるつき　ぬんぬゝいのおく
かく守のちこ　御くしの奥乃入物なり
御くりの毎いハ　造花と甚しくたき
とくさとつく　ぬあまし延長の御賀なり
梓机一脚よて銀山銀水金銀花
のうしこう
見やひと　かめぬつこと楽なり
まゆゝふとくしかぬりしなり　雨し
ハいゝあしきうりと御さゝひなりゆへよ

中ごの文や元と仕らせ給へり
あまりやはらかにやさしくなりぬるを
なりのみ三位の中将事なりと
けうさハおろかなりなんし
長恨しのりはかりしかりん　みさきの
人さしてはまく中賀して仕る
すなのあまと合なり
ワさきに松の小枝に　さしも長生賀
と祝ふのうたなりりとも宮殿
源氏の中ますなハ唯
せめてやはらかに
三ぬしてこそ引給ハ

若くやはらかにしく祝ふの事なれ
すると源氏よりもあるなり
ちゝのとうきを　何乃物をこそ仕
年の賀の祝なり
ちゝのとうより　祝儀なりとこそ二人
中あいめんハ多いくの儀
或説　第七の文なり
今あるやうなんを　今ハ祝あるを
ちゝのきゝ中ハ心仕よるとすると
月ごとより今ハ陽ハあるを
中むもと　結構の若れ光者れたる

このみちにこそありけれとて中納言は
ゑらしめさしまいりて　外記云延長二
年正月廿五日治部中務式部殿慶親
王以下同兼輔朝臣執棒物地冥棒
笋蕨之類我足郎奏良之
物盛小籠置梅柳枝
次侍従以下執折櫃物
惣六棒　果子之類
入自日華門列立庭中
一列親王以下参
議以上一列五位
各奏物名記下略　こと物ハ
地名なりこれハ籠物なり枝なとに付しや
ありもの　春奏乃名なり
御つきとて　以上の類之
事之事し　楽器の地名之

まえハ　おほきおほいの大一の秘蔵とあり
いはなとつらしまうるハありしりしるなり
よりの物也　書そのほり　よりも楽
笛しあるせあるなり
ちつおきハこのとま　物まよ出つりて
別の琴とて引あまなり
まえくれ　やさしくめるかくしすこみか
ぬかきなり　和琴とやのめるさる日
く調子なりくへし
きじハ無名也　笛之え
宜陽殿　代々の重宝とある所也

一昆文　朱雀院と申一服の女文をかり
いさゝかに伯文はなしたまへるを
あまたかりそめにし
ゆかりとて　呂乃律はなりけり
孫うの宮　三条殿より宮ゝ
きめ〳〵しうもてなりたり
三の殿とうさいしにより　とけや宮
のめでたさ　八とけや梅はなさき
俗本律
折出
つゝうの事のさはり　一孫　山帝賀給ふ
私の礼儀なりきやうくハ　還遊
とくあるとくをもとられたりけるに
ゆくすゑをかけ出たるとうりはく
うひあるべきなりけり　老
老やまひにみをひかれ
引さはるを見さしてうつりをかり
あるべきなりめよ
ゆるめてさ分れ而をれよ　而をれ
かりたるすのことのかなりけ
ゆりかへりて　帝
かへりてあれとなり
世に住て　むかしのを返のさ

たまれるものなり

あれないの母屋なる

母のもとに出　あれないの母屋なる

御ものもとまりて御ものの乳母

と迎へ出分つゝ車とゝのへり

まいりて女房たちの御ゝ院の御ゝ

御下りたまへの事なりや

むこの大君と　吉家の典侍ゝなり

御ゝ殿ゝゝゝいとゝゝゝゝゝゝ

御ゝ　源氏の母ゝゝゝゝ

なり世ゝのゝゝゝゝゝ

又世ゝの京ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

めゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

命ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いまゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

といゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃御事なりゝゝ　秋院

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

女ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むかしハさすかぬさ陰よ　中将中将よさ
源氏の物かたり人ありさすかぬと上
上の物語へのすへ物かたりの外にかく
のわしより言ひてしありてしめハ所作
名をもともよしくとハむらさきさうへ世ん
物へむけしゆりしつきさてまつりて
さもりきれてあり
子くとしもろ　むらさきのとれのへ
さまりくかくきのしき　むらさきよのと
の物へなりまへよ人ものさつひき
ことさし諸よ益しけるといへり

越前まての事ハ　むらさきの式部
所のすハ乃しとさて源氏の物かたり
のすの得地ひあの乃しあり
和泉しむしけあり　地所ひのさへよ
狩して逢め後人ありさてせしと云れへ
ハ和く所し　宇治のとあり
やとはあたあし　春の風とあや
ぬし梅のきれ
うれしめ人そこにぬれぬ　庭の雨こうに
雪代のつりきく朝闇の乃みや
枇杷の書
子滋陰処枇杷書衛毅

声前未有塵　一説　五湖の小の方此海
秋雪よ付て天ゝ詩歌誦し多
きりなり

とし毎に世々乃　人々の袖とゝ
ちゝめてしと　みてゝあけぬるとしなり
ひとゝせ引　やとゝ人々の
しかのめまなり

ゆきしらてゝ　女三の宮ゝ
ゆくへいかに　この事とゝしてさのゝ
ゆきめくゆゝ　せめのすなり
けさの雪よ　文のことなり

雪をゝ引ひくゝ　女三乃宮
枕しめまゝ　ゝなり
中道と　ひかり
りはしかくし　一説
むめよつけ　ゝ乃宮
やうゝみゆ　女三の宮の事
ゆくゝ　ゝのひ
雪とまさり　文とりもの
花のさくひけし
雛よりすぐへ　ゆりつはて雛
御の宮あり　ゝ宮此ゝと云

これはよませし花をたづねしゆゑ
花といはずして　源氏の詞なり
むかしよりのよみ詞はよみならひは
のさまなりけるべし
桜よりして　梅の音は桜のむかしより
乃ころなり
是もあまたしたりけるあれと　人の八乃
これはやはりきれのはさらに多くませ
色々こと葉なり
これにしわく　双紙のこと葉なり
さりのはしに　女三の宮の詞なれ

りなりにあしかるの入乃詞なり
よろしく　宴にてはいかゞしきことなり
おいらくの　大かたなる二字にして
かくせしむ事はいつもあるまじ
むかしの　若年より善悪とよみ来る
らりしてよるなくさめて八思ひよるしきり
そりくふよく　人のきれくよろしき事は
はやくしなり
まつのおりはふるあしまほしき　大和に
てゆりのし八しよくあしゆゑりしよき
まれなるしかしなり

投しおきて　あまりをしかなとのたまへり
月のうちに　二月中にし
姫宮の御事ハ心くるしくいふ
きく所やなし　第一は姫宮の御ゆかりと
秘かくされて又ことわりなるやあらへし　双
紙のことなりまいらくといふなり父
のことなり御所にて朱の花きこしめ
さるゝ所もさそくうり給ふしおく
きうくちり
是女まかへき申へ　女三乃宮也し
笑しとていとくまてもしきとも

わきなりし人乃こいつかり文の御返し
さゝなゐのへて　けるなりとの給へて
あまりし　双郎みことま々へ
かんの君きさいのこみやうしましいに
条の宮にまかり　西北の文乃御所なり
一称　右大臣の母として所かく遣ハ子也とあり
うらしそのひ　文の書ほしそのうへ
よそうひて御きゝひとあり給ふ
いてや　朧月夜のいさり給こえ御へと
八源氏の御事に哀よ所しおれるの
こん朱雀院の御ふるのなり

[illegible]

て陽見故君子は慎むべき事なり

のべるなり 社稷の心仕へ

きよ成りて 殺さるとすること

三世殺る 村雨のさらすれ

文ことばは成とも

三のぬれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月一日

利根の清水

さしつよ利根のさハ 勝月氏の清

八月十四日かつしかの

あるすの名所

むさしあるとのの 義氏乃さと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平仲の宮なれのの書籍の書ふる
是とくてや　山陽とうとくよりより
ゝ月と中しきさて　源氏の作者の
海ゝゝ　ゝいてゝゝ
間のゝせなとめゝゝ　かんの君の奇
ゝあゝゝハ世ゝ世ゝ
いゝゝゝ　ゝん乃君ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ　いとのゝ
ゝのゝゝ　ゝゝゝ
りゝゝりのゝゝ　足ハ行やゝん乃
ゝゝ歌のゝゝゝゝゝゝ

二八友よ　いとゝ
ゝゝふゝゝゝ　中納言君乃ゝゝ
ゝゝゝゝゝ
古言　西行のゝ
ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
花乃ゝゝハ秋　と文ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ　源氏
ゝのゝハ　ゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

勝月秋への車坂ちかの浦対面

のやうにうり物ばかり

[illegible]いまんあるくらへ　首乃

浦[illegible]とと乃浦ありあらゑ

めくらへゑまきたり

[illegible]　[illegible]の[illegible]浦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きり[illegible]の浦くハ　あしの[illegible]

浦車[illegible]十二軍[illegible]

めりしきさのの　[illegible]

[illegible]　[illegible]のとれ[illegible]

[illegible]　[illegible]後[illegible]

[illegible]　[illegible]の[illegible]ハ

[illegible]人[illegible]人ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]の　[illegible]の浦[illegible]

[illegible]

見しうめのさかりしも事なるに
ひとしきりしの
らちかのあるに
ひとしき秋分にあるべきなり　今
四ひらさくひとしきのてきしかたへとも
見えはうれすしの歩くしすきまに
いひもてあるべのくしこうくうく
祝のこと　見ると見てなりしく
所よりちく秋やよめん　秋のうめ
のしろのさまにしい方はうん弥
稽の方なりとしく　ひとしく

水高はあるちく多也　水高はまるに
いうん桃園と又変なるゆく所べき
ふくく萩の下葉ともくくれのこと此
しかくく庭のみるの萩の下をふ
此ちりく所眼前ちりくくりあくせた
まるすりや

所ハさり宗　有まし言ようとうう
かなくねハ乗ちんれうしの形り
まるの此方　此石の女郎の事
もしの海見し　歩毋女郎市しのりすく
ひくきのくの絵へいて

ことしまし西さいりけり

法華堂　松風の声こそ尺迫

源氏のさとのあり

屋ゝ佛　御賀ゝ佛維摩経の書

ちこゝに　箱ゝちに経仏くむ

ゝくも　おなじくはいとこゝろなり

水三月廿御　御賀廿日

おさめ進せ　ゝ　冑の御賀

水三月廿八　廿日廿八御賀ゝの

日ゝいとやうそ酒ゝや

山院ハ　ゝ

御ゝ殿ゝ二条院ゝ

ゝ二条院ハ御ゝ　ゝ三條院ハ人ゝ

ゝ二條院ゝ　御ゝ　ハ方

御ゝ　他ゝ　ハ

条院ゝ世ゝ

ゝんゝのゝ　例のゝ

ゝれの　母屋ゝ

ゝ乳ゝ　ゝ

ゝ　賀の御　侍ゝ

父ゝ　ゝ　皇ゝ

[illegible]はなり　課銅八あはうしのうなり

あやの[illegible]　[illegible]

唐[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小乃政所　もとゝ[illegible]の[illegible]乃事なり

[illegible]方小政所[illegible]人[illegible]りていひ[illegible]

[illegible]り別[illegible]家目の中[illegible]補[illegible]

鶴の[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道家　[illegible]

例の[illegible]

[illegible]

是ハ[illegible]前[illegible]乃

[illegible]

親[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]乃[illegible]

[illegible]

[illegible]乃京の七大寺

延長二年天子

写千巻布写千部十三方ゟ[illegible]

[illegible]中文秋好[illegible]

[illegible]都の写寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内裏より出御
中納言よつけ殿
と久秀共ゆかりの方へ
出立なり
[illegible]の町
[illegible]
[illegible]
[illegible]の宴　内裏より[illegible]
[illegible]
[illegible]寮[illegible]院より宴
[illegible]
[illegible]

殿上人ハ　[illegible]と人ハ[illegible]殿中より[illegible]院の
[illegible]の殿上人[illegible]
[illegible]進[illegible]
[illegible]
[illegible]院[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
勅宣[illegible]
[illegible]院へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の御事なり

御馬四十疋　延長二年四月廿五日より

多院より被寄若葉の門裏院引出物

御馬四十疋（自日華門鋪人々退出之後給之）　沢の馬寮給之

今案延長代御賀被御馬四十疋八院より

被引出院の御まやより

[illegible]裏て八近衛と御

と御給人ありてじもつの官人とめ

て是なり御馬の御馬八内裏より

引出院より左右のるつさ之府

の官人をもて[illegible]

六衛府と左右近衛内蔵寮の[illegible]

のなり又左将曹の左右の番作厨と

も之前ひいたりけり

例の[illegible]

かつてさより有舞なり　いつ[illegible]

[illegible]

[illegible]の御馬　切[illegible]

[illegible]御馬のなり

[illegible]御馬　伊さいよ

[illegible]

久さりをもむこうなり[illegible]御馬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

錄[illegible]

一院　朱雀院[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事とハあしかのうらせをのりすゝ
めるハ　きゝもせぬ事ハ
月しろ浦本丁いさゝせをのりて
居るハ事とめるのうれ、おもてゝ
本丁とゝちいさゝゝれ撥て大小をぬく
よりゝゝ心ゝのの　本丁のゝ心ゝの
なりみて本丁とうゝてきりあゝ
さゝまれるすゝ
あゝやとゝ事ハ　ぬきゝ口ぬ神ゝ
こゝあいのひゝのゝとや　めるのゝこのゝ
ゝなりとやとゝいとゝさゝゝんとなり

ゝやハ言ハ叩なり
世をとゝあゝハゝあゝ　あゝハあゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝなり
別きん曉のゝを　女郎の浦ハゝゝ
さゝゝさゝの浦ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬゝり曉とゝ口ゝゝゝて仕て云り
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宣旨数度にて女房の名あり
ちりそなの門内の所ゝ
延長元年六月一日皇后
内侍奉仕湯殿
殿男覆村
前湯
ちゝの事
ないくゝ内侍の入道の母
をしいたゝくあるんこゝ
いめのなり
例乃ゆゝふ
寝殿へ
七月九日ちゝ渡り
渡り給ふのあり
渡前の和ハ根本乃小臺盤之前ゝ銀
乃皆馬以盤やゝのあ
ふきゝ綿布巻手九
貫末奈入の人ゝ
りて是ゝ
き一重
朱雀院のゝ世
内門渡生九
やゝ
ゆゝ
ふゝ
差人所り
延長元年
内門ゝ渡ふ
天暦乃渡
院の
以弁の宣旨

義人言行を記すなり

中文　秋好子

まご孫ひつ孫へよりハめでたしん

記者のこと葉なり言んのまこと乃あひの

うんしゃくしぬまとをこと乃あひの

ものをたのしくうぬまし

クハクをゆるしたひと云り

月くしのこと　むこ乃よのこと

しの文へこのまなり

あくいなくつねつなさるる　文文

の修行とあるこの八道まし

し事なり

こ乃こと乃ものこと　八道のこと乃ものこと

ゆ行りや　ゆしのこのこと

月乃こと乃ものこの山家　過去因果経よ

善恵仙人の須弥乃日月ゆ長乃こ

ぬまと普光佛のあと世ぬまし

事あり又須弥の山ゆを王道こと

ぬこのなりこ乃義のこと乃ものを右ゆ

ものを女のこと　おこれり月日乃ひかりゆ

月ものこの中文　日ものこと乃ものこ

とこのり　月つこと　こと乃ひかりしあ

[illegible]あしの入道のまなのっ
[illegible]て宗[illegible]ひさぐうりをも其
[illegible]みさはり
[illegible]とは[illegible]の写海[illegible]
[illegible]ます　小舟ハ般
若乃舟[illegible]皮きしの列へよなり
現在二世乃[illegible]成就してめてた
よ称美なり　[illegible]
信書乃[illegible]の例ハ不[illegible]稽すし
水茶きしの　[illegible]
玄賓僧都山より入出の[illegible]

水茶[illegible]
[illegible]ます[illegible]のうしハ
[illegible]
[illegible]いてん暁ちく　ひりいてむる
[illegible]ひ[illegible]
又ハ入道[illegible]
[illegible]
たりあり

月日[illegible]
つきりの[illegible]
[illegible]
[illegible]

くはのうえに　せをはうえたる
ゆりのよ　なりのよ
なりさりや
あさりはてたる
ものよやまなりの
世成るもの　昔入道と申
とかれまとゆりと申ものは今宿
まも程欲ハのうつりとなり
佛乃浄土
常世寅山の名所
仏のてら〳〵　撰度の御歌
ゆかしくもてハ　ゆかしとあるの祖

母君とゆりてうるさく　かゝあなり
ゆるせさうめむ　ゆるさうりけり　上の
と集りうれ　宮なりきれて
世尾和の事なるとうけて云
歌方紙乃ゆ　あしのゝ乃ゆ
後のまれ　ゆるさうひて　い世れうり
とゆくうるうなり
ゆるの入道とうるハなり
ゆるうるゆる　絶のうるり
ゆるうるゆる　ゆるうるのうりや
ゆるのうるゆ乃うるる

[illegible]

きのくを　女房の[illegible]のあしの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と八月ともめ成　さて人のやうに源氏
ものしの清涼殿にみんちれしやうに
あやこうきに記りはしと　又乃すりと
まうとうに別べと清涼殿せうとしに
ふれりてしいり
りうきせしあるりん　明石のうへ乃
あうしに海さりてしいりさのうに世と
をしいりくみせよかりとうとりと
院八姫宮乃　女三宮より源氏へ
あいに海　あしのうへのうへうり
いううして　明石の尼君より
まりりさうとん人の神んうりりる
神りうあうてうりり
女ようにうんうう　女宮をうん
利うと人ようにあうぬうりり
帝中うに　源氏の信へうううう
源氏うへうへうりのぬまうん
まうハうやうまいうして　たまをう
りうあうりうと　初し對して先八
とうりりあしのうへのううれ
女宮のううりうりうりうりう
をいううまうてたうして

乃ふまよりりへし　明石のうへの乃こと葉を

ありてをる

源氏このかたきこのかたのかたこのかたを

とこそ思ひなりし

面白きこと　ちるはなの歌の事なり

源氏りをこうをあ

帥の宮こうを

てまつりくらべ給ふ

ひとしなつうをこうをよみんう　年氏の

ゆこなのよ紙をうん　ひとしこうをなりん

といふうをうをうり

かりうをうをあり

一えうをうを

あはとうを秋とうをあはとうをあはとうを

さうをうをきあるうしへの　ゆこなの

のこうをうを艶なる方あるうをうり

とはの乃　あしのうへのこと葉なり

尼君いふ　源氏の君乃移んとおも

うをうをうり

あ尼きりて

梵字のやうなるうをうをいふうり　芦辺のうをうを

ひとうを秋をのうり給ふ　浦をを

りをうをとあるれのうをりよりをあり

ひうをうをいふうり

先祖乃行状ハ　忠文民部ノ卿門徒代の
古將軍ヨリ　ケ　新賞ヲ　ありしよ　清怪
公賞　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
清怪ヨリ　家ヨリ　家ヨリ　ヨリ　ヨリ　ヨリ
ヨリ　ヨリ　ヨリ　

他人のうきけとい
あしのうへのすゝり今ハ
叩石の字へはゆゝりあまひて
りもあれなよ
のうきぬとゝり
せとの海毎の中海
いかゝ
まゝなり字へきしさとさうん
あしぬかしあしろハ一えやうを
しあれうろりあたりとゝり
あ屋まりてさのうろゆん
あるんやまりてさて
ろもうりぬ人ぬのまはう
人をゝえりさゝ
ゝりゝ
あしうるかんやうなり
よのしまりもうとゝ
地名
なりりさしうて用捨ありやなり二
奉の字のうろうり
元字
きうろりやうん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氏の語なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しるべきのめでたき法師にてはよ
對したいてこそあり
おすべきなり
女之乃文ともたまさ
きのこの乃法師親鸞なりけるすべて乃世
ゝをも朱雀院乃法師なれば
一さいハうろくをきゝて三りゝこゝ
やゝこゝ後しゝんきんゝのよをよ
ときくりやあゝのこゝの弟子よ
ゝ乃りのりゝとゆゝひこるこゝろて
多くゝのゝよしゝあ孫まれてとやゝの
。一ゝゝ法ゝのゝて後世ばさゝこゝるやり

ゆゝゝ乃ゝゝしゝ雅まれてとバさゝ親
未あゝりきこゝりゝ河海りゝ引
ゝ乃信ゝりゝゝ伊勢物語しゝ乃
法庵の類なり（しゝゝゝゝ入道の
めゝゝりゝ乃ゝのゝはりてゝあれ
ゝ後世ばさゝ（ゆゝひ屋ゝふゝて
七將君　久寿
このめ和　女之乃文乃法師
乃きゝゝあまゝりゝ　まゝひと乃ゝりゝ
さゝとゝめゝハゝゝ（ゆゝ　女之の文
の女房ゝ文ゝゝ乃ゝさゝ

何事をのたまふやうにかありめるらん
うたをもよみ侍りけるあるじ女房の中に事ありて
うたのうしろにあるべきをみえぬ人の
事ありさやうなる人をもはりの上
をありしやうにもてなしむさとうたを
さしたりやれたる人よまるべきはを
ひとりおもひてやうの月ゆゑ
ありてうたをなんいとかなり
うたハかゝるをもてあそびあるべし
をかしをのたまふ女房をうたあ
ゆゑのありさまをもてあそ

ひとりおもひ世中はかなきものをも
聖人のうたをまなびて
のたまふ人なきをよく人物をえらく
の詩をもうたハ
月をうたをのうたを
いと野ふるのはゝそのなり
あれはの方
なをのうんの歌
うたよりさくひとりさ歌ありうたあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くゆるひあまたとあり
えやうくりりや こ乃事ハ北ハさよ
ハこなりまたの庭ハん月乃あり
かりきぬのさまとあり
を元ぬのうへ
のまゝ里ゆりすりや
みちもりまんあめまち
南ハさん階乃あれ
を
をのうへ元ゆ
ていうう乃ひあるなりし
さまとゆまりぬ入ゆ

寝殿の
花のゆ

冠の元ゆひすうくハさとり
ひりくゆりぬ元ゆ舟なり
りめさのすゆハさとりぬくえて
をくしとりなりあるすなりり
めよりうとりうす家くのハめ
へうあり
えくハさうくて行りて　資雅ハん
を元のえぬ元りりて家ゆる
うりりうとりうを元ものえさと
りふとなくゆりうれりや資雅ハ
ゆうゆりりれ氏ハくゆ

藺の家なり有雅卿乃なり有雅
の後名雅院の浄御まりの是
んくしの中のしみ　中のくしく級字
ときさくしくこれくしもむり
さくしくのくしくしてく　吹風ゝ
あくしくこの三ハさくしくしさくてく
りさくしくし
三乃の御めさ袋　めさハくしく
紙とさくりてくしくし袋よいめく
是ハ孫卿の人のものすくく
屋ゝり三のくつさくしゆのて三

の三のくしくしくしめく
人字くしくしくしさて　丹よくし
さくしくり
よめのくしくしくし耳天くまし
まりこ是くしくかゝゝ乃さくり
くしくしを丹くの二ゝまの孔んくしゆ
くくくくし是ゝ　ゆめくくしくしむ
三のくしくしまりハこんてんゆ
ひんくゆくてゆくあり三くし
このくしく三くくくくくくくし
こんてんの今りくのくしくくて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]